

兵庫県南部大地震 記念の日 追悼 礼拝 次第

日時 2021年1月17日(日)午後6時から
会場 オンライン・ライブ映像配信
主催 日本基督教団 兵庫教区
配信協力 小栗献(神戸聖愛教会)



礼拝ライブ配
信用QRコード*

司式 森なお (加古川東教会)

奏楽 堀香織 (須磨教会)

前奏	“最愛のイエスよ 我らここに集いて”	奏楽者
招き	詩編 40編12節(p.2)	司式者
告白	被災教区の震災5年目の宣教にあたっての告白(p.3~4)	一同
黙禱		一同
うた	苦しみ悩みの (『讚美歌21』 526;1~5節、p.5~6)	一同
祈り		司式者
聖書	ルカによる福音書 21章8b~11節(p.7)	司式者
うた	ひさくまちにし (『讚美歌1編』 94、p.9~10)	一同
説教	『今の不安の中で、阪神・淡路大震災からの26年を想う』	

市川哲 (芦屋岩園教会)

祈り	1月17日 人と自然の共存を祈る(p.11)	一同
うた	主イエスこそわが望み (『讚美歌21』 531、p.12~13)	一同
終禱		説教者
後奏	“われ苦しみの極みにあるとき”	奏楽者
報告		

招き

しゅ
主よ、

あなたも^{あわ}憐れみの^{こころ}心を閉ざす^とことなく

いつく
慈しみとまこと^{まも}によって

いつもわたしをお守り^{まも}ください。

(詩編 40編12節、『新共同訳聖書』)

告白 被災教区の震災5年目の宣教にあたっての告白

わたしたちは、地震と被災に関わる経験を通して示された、試練と恵みの神の働きを信じる。

わたしたちは、被災が一樣でなく極めて多様で、それぞれに固有の生活体験であることを知る。しかし、その個々の生活に働かれる神の臨在を認識した。そして固定化した福音理解、感性と想像力に欠けた信仰生活が厳しく問われたと信じる。

わたしたちは、非常時の中で教会の地域社会への関わりと参与、その日常性のあり方を問われた。被災の現実から教えられたのは、隣人への関心、関係の豊かさを生きることであると信じる。

わたしたちは、^{おおじしん}大地震という^{みそう}未曾有の^{できごと}出来事を経験し
た。^しおびたしい^{まえ}死を^{あつどう}前に^{かな}圧倒されながら、^{げんじつ}悲しむ^むより^あほか
ない^{たいせつ}現実と^し向かい^{どうじ}合うことの^{だいじ}大切さを^し知った。^{どうじ}同時に、^{れきし}イエ
ス・^{けいじ}キリストにおいて^{かみ}歴史に^{ひさい}啓示された^{しん}神は、^な被災の^{なか}ただ
中にも^{りんざい}臨在^{しん}されていることを^{しん}信じる。

わたしたちは、^{げんじつ}現実の^{くなん}苦難の^{なか}中にある^{いのち}生命の^{いどな}営みと、そ
の^{であ}出会いの^{なか}中^{かみ}に^おこそ^{しん}神は^{しんこう}居られることを^{しん}信じる。その^{しんこう}信仰
によって^{みち}未知の^ふものを^わ踏み^{ことば}分け^{つむ}つつ^{ことば}言葉を^{つむ}紡ぎ^{ことば}だして^{つむ}いく
ことが^{ふくいんせんきょう}福音^{しん}宣教と^{しん}信じる。

わたしたちが^{ひさい}被災の^{げんじつ}現実の^{なか}中で、『^{ちいき}地域の^{さいせい}再生^{さいせい}なくて、
^{きょうかい}教会の^{ふっこう}復興^{あゆ}は^{あゆ}ありえない』として^{あゆ}歩んできた^{かみ}ことが、^{まえ}神の^{まえ}前
に^た立つ^{しんこう}わたしたちの^{おうどう}信仰の^{こくはく}応答^{こくはく}であると^{こくはく}告白^{こくはく}する。

アーメン

うた 苦しみ悩みの (『讚美歌21』 526:1~5節)

- 1 苦し^{くる}み悩^{なや}みの きわみ^{なや}にある^{たす}とき、
逃^{のが}れる道^{みち}なく、助^{たす}けも得^えられず、
- 2 まことの^{かみ}み神^{かみ}に 救^{すく}いを求^{もと}めて
ささ^{いの}げる祈^{いの}りは われら^{なぐさ}の慰^{なぐさ}め。
- 3 犯^{おか}したあやま^{かみ}ち 心^{こころ}から悔^くいて、
あわれ^{かみ}みの神^{かみ}の み顔^{かお}を仰^{あお}げば、
- 4 神^{かみ}はみ子^こイエスの とりなし^{こた}に^{こた}え、
救^{すく}いの恵^{めぐ}みを 与^{あた}えてくださる。
- 5 この日^ひもみ前^{まえ}に 集^{あつ}まるわれら^{あつ}は
すべ^{なげ}ての嘆^{なげ}きを 主^{しゅ}の手^てにゆだ^{しゅ}ねる。

聖書 ルカによる福音書 21章8b～11節

8b ^{まど}惑わされないように^き気をつけなさい。わたしの^な名を^な名乗

^{もの}る者が^{おおぜい}大勢^{あらわ}現れ、『わたしが^{それだ}』とか、『^{とき}時が^{ちか}近づいた』

とか^い言うが、^いついて^い行っ^はては^なら^ない。^{せんそう}戦争とか^{ぼうどう}暴動の^{こと}こと

を^き聞いても、^おおび^えては^なら^ない。こ^うい^うこ^とが^まず^お起^こるに

^き決^まっ^てい^るが、^よ世^の終^わり^はす^ぐに^は来^ない^から^であ^る。」

10 ^{さら}そして^い更^に、^{たみ}言^われ^た。「^{たみ}民^は民^に、^{くに}国^は国^に敵^対して

^た立^あち^あがる。11 ^{おお}そして、^{じしん}大^きな^{じしん}地^{しん}震^があ^り、^{ほうぼう}方^々に^{ききん}飢^饉や

^{えきびょう}疫^病が^お起^こり、^{おそ}恐^ろしい^{げんしょう}現^象や^{いちじる}著^ししい^{しるし}徴^が天^にあ^らわ

(『新共同訳聖書』)

うた ひさしくまちにし (『讚美歌1編』94)

1

久^{ひさ}しく待ちにし 主よ、とく^{きた}来りて、
み民のなわめを 解^とき放^{はな}ちたまえ。
主よ主よ、み民を 救わせたまえや。

2

あしたの星なる 主よ、とく来りて、
お暗^{くら}きこの世に み光をたまえ。
主よ主よ、み民を 救わせたまえや。

3

ダビデの裔^{すえ}なる 主よ、とく来りて、
平和の花 咲く 国をたてたまえ。
主よ主よ、み民を 救わせたまえや。

4

ちからの君なる 主よ、とく来りて、
輝^{かがや}くみくらに とわに^つ即き給え。
主よ主よ、み民を 救わせたまえや。

この歌詞は、日本音楽著作権協会(JASRAC)の許可のもと、複写し掲載しています。

日本音楽著作権協会(出)許諾第 2100231-101 号

祈り 1月17日 人と自然の共存を祈る

かみ わたし しぜん なか い い
神さま、私たちが自然の中で生き、生かされていることを
かんしゃ
感謝します。

じぶん しぜん なか いちぶ
でも、自分たちも大きな自然の中の一部であって、その
しぜん なか い わす
自然の中で生かされているということをすぐに忘れてしまい
ます。いつも人間だけが、人間の知恵や力によって生きて
いて、その上、自分たちが自然を支配しているかのように
かんちが
勘違いしてしまいます。

おおじしん じぶん かんが いじょう
あの大地震をとおして、自分たちが考えている以上に
さまさま ささ はげ し え いま わたし
様々な支えや励ましがあつたことを知り得た今、私たちは
しぜん たい ささ なぐさ とも い なかま
自然に対しても、支えられ、慰められ、共に生きている仲間
おほ おも
であることを覚えていきたいと思ひます。

けつ にんげん しぜん しはい
決して人間が自然を支配しているものではないというこ
おほ
とを覚えるために。

アーメン

うた 主イエスこそわが望み (『讚美歌21』 531)

- 1 主^{しゅ}イエスこそ わが^{のぞ}望み、
わがあこがれ、わが^{うた}歌。
昼^{ひる}も夜^{よる}も みちびく
わが^{ひかり}光、わが^{ちから}力。
- 2 主^{しゅ}イエスこそ わがつるぎ、
わが^{よろこ}喜び、わが^{たて}盾。
ただ主^{しゅ}こそが わが^{かみ}神、
わが^{たから}宝、わがすべて。
- 3 ころみの^よ世にありて
罪^{つみ}の力^{ちから}、死^しのやみ
とり^{かこ}囲みて 迫^{せま}れど
なお主^{しゅ}こそ、わが^{のぞ}望み。

